

2022 年度  
学校自己評価報告書

学校法人日本プリンティングアカデミー  
学校自己評価委員会

## ■ 2022年度学校自己評価について

日本プリンティングアカデミーは、「印刷関連産業に的を定めた専門教育・研究機関」「次世代を担う経営・営業・技術者育成のための専門教育・研究機関」として 1978年4月に開校された印刷関連企業の成長を支援する唯一の学校法人・専門学校です。印刷関連業界に支えられ、創立43年目。国内・海外を含めて、関連業界に約1000名以上の人財を排出し、約700名の卒業生が現役として活躍しています。

日本プリンティングアカデミーでは「企業で役立ち、企業発展の原動力となる実践的人財育成」を目指し、印刷情報産業の発展に貢献するために、印刷メディアの価値とデジタルメディアの有機的融合の検証の場として、人財育成と研究機関を両輪に社会に通じる経営・マーケティング・クリエイティブ・生産技術を総合的にバランス良く身に付け、実業革新と社会的価値向上に貢献できる人財育成を教育方針として運営しています。

平成19年度に学校教育法施行規則が改正となり、専修学校においても自己評価の実施および公開が義務化されたことをふまえ、日本プリンティングアカデミーも学校自己評価を実施・公開を行い、業界各所からのご意見をいただきPDCAの実施を行い、さらなる教育の質の向上に取り組んでいます。

### 1. 対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

#### ○ 委員会開催

第1回 2022年5月6日（金）9:00～12:00

第2回 2022年9月14日（水）15:00～18:00

第3回 2023年2月17日（金）15:00～18:00

### 2. 実施方法

#### (1) 実施組織：学校自己評価委員会

委員長：花井 秀勝（理事長）      委員：曹 于鉉（学校長）

委員：石原 智子（事務局長）      委員：中村 竜（事務局）

#### (2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠。

(3) 評価方法

学生アンケート、教職員自己評価、各学科及び部門の自己評価を実施、自己評価委員会を開催し、学校自己評価に取り纏め。

**3. 評価の項目**

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

**4. 評価項目に対する評価**

(1) 次の4段階で点数評価しました。

4：適切      3：ほぼ適切      2：やや不適切      1：不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

## 1. 教育理念・目標

No	設問	評価点
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④・3・2・1
2	専門分野における職業教育の特色は明確か	④・3・2・1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④・3・2・1
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4・③・2・1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4・③・2・1

### 【2022年度の現状と今後の改善策】

4. 本校の教育理念は、ホームページ・学校案内に掲載しているが、オープンキャンパス・学校説明会でも入学希望者・保護者・業界関係者等へのさらなる周知拡大を図る必要がある。また今後は YouTube 等で動画を活用した学校案内等も用意する必要がある、今年度は2本しかなく、今後は様々な動画を増やしていきたい。
5. 印刷業界はテクノロジーの進化によって変化し続けている。ダイレクトマーケティング、デジタル印刷、自動化（RPA）などの新しい技術が登場している、学科・カリキュラムがこれらの新技術に適切に対応しているかどうかを常に検討する必要がある。

## 2. 学校運営

No	設問	評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④・3・2・1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4・③・2・1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④・3・2・1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④・3・2・1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④・3・2・1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④・3・2・1
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4・③・2・1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4・③・2・1

### 【2022年度の現状と今後の改善策】

2. 毎年の運営計画や事業計画は実施できてはいるが年間を通した、より具体的な行動目標やスケジュール管理が必要である。今後はPDCAを意識して計画がより確実に具現化・達成できるように検証・改善を行う必要がある。
  
7. WEBや学校案内では各講義の紹介などが行われてはいるが、他の大学などが公開しているシラバスのようなものはない、毎年の課題ではあるがシラバスを公開し講義の詳細まで掲載することが今後必要であり現在検討中である。
  
8. NASの導入やGoogleカレンダーによる情報共有化等で業務効率化は進んでいるが、パスワードの更新やメールや各書類データのバックアップは出来ていない。今後はクラウドに自動でバックアップするシステムを設置していく必要がある。

### 3 . 教育活動

No	設問	評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

3. カリキュラムは確かに体系的に編成されているが、さらなる改善が求められる。各科目の具体的な講義内容に関しては、シラバスなどを活用してより明確に整理することが必要である。例えば、経営学的な財務諸表やキャッシュフローに関しては、どの範囲まで講義するのか、そしてどのような方法で授業を進めるのか、これらの要素を全体の科目バランスを考えながらシラバスを制作する必要がある。
4. より実践的なカリキュラムを実現するためには、企業見学やOB講義、インターンシップなどの要素を充実させることが求められます。こうした取り組みは昨年に比べ増加しているが、コロナ前の状況に比べるとまだまだ十分とは言えない。今後は感染対策をしっかりと施しつつ、見学やインターンシップの機会を増やしていくことが重要である。同時に、講師陣にも現場での経験に基づいた実践的なエピソードを交えた講義をお願いするなど工夫を凝らして、より実践的な学びを生み出していくことが必要である。
5. 定期的に企業・関係施設等や業界団体等からヒアリングを行い現状の検証、問題点の検討を行い常に改善をしているが、今後は新しい技術やトレンドへの迅速な対応や学生のニーズや進路先への対応や連携先とのコミュニケーションを通じて、学生が求めるスキルや知識に合致したカリキュラムを提供できるよう努力が必要である。
8. 職業教育については常に外部関係者と連携しながら質の向上を目指しているが、最新の実技・実習については外部関係者の誰に依頼するのか難しい講義もある、今後はシラバス等をWEBで公開することで広く各関係者から講師の紹介やアドバイスをいただき評価に繋げていきたいと考えている。
11. 教育理念・方針に合わせた授業、業界標準・最先端の実習実施を目標に常に教員確保を実施しているが、昨今のIT関係のAI、DX関連の急速な発展・進化には常に理解・対応していく必要性があり勉強会や情報交換会を行う必要がある。

12. 企業・関係施設等や業界団体等と連携を行い現場で活躍している実践的な講師の確保を行なっているが、印刷関連である WEB 関係、デジタルマーケティング、データサイエンス等の最新分野の教員を確保することは難しい、現在は IT 担当の教員がカバーしているが将来的には各専門分野の教員を確保していきたい。
  
14. ウェビナーの参加や専門書籍の購入等積極的に実施しているが、長期的かつ計画的に各教員がスキルアッププランを構築し各自の専門分野や共有する分野など職員全体のバランスを考えスキルアップしていく必要がある。



#### 4. 学修成果

No	設問	評価点
1	就職率の向上が図られているか	④・3・2・1
2	資格取得率の向上が図られているか	4・③・2・1
3	退学率の低減が図られているか	④・3・2・1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④・3・2・1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④・3・2・1

#### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

2. 専任講師による各資格を取り扱う業界団体での委員就任など指導体制は確保しているが、学生の資質やレベルに合わせた資格取得指導の策定が必要である。また、学生のモチベーションを維持・向上させるために、資格取得の重要性や将来の利得についての情報や、成功事例の共有を行う必要がある。また、資格取得の達成感を称賛する制度を導入することも必要である。

## 5 . 学生支援

No	設問	評価点
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
7	保護者と適切に連携しているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
8	卒業生への支援体制はあるか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

6. 定期的に担当教員が学生とのヒアリングを行い問題があれば支援をしている。今後は少しずつではあるが補習クラスの提供や学習環境の整備（図書館、PC 実習室）を行いたい。
9. 関係企業・施設等や業界団体等からの支援もあり、業界標準の設備を設置しているが、常に最新の充実した教育環境を目指した設備確保を引き続き行う。また来年度から技能検定試験の検定会場にも選定され、機器のメンテナンス・保守点検など日頃からの管理を徹底していきたい。

## 6. 教育環境

No	設問	評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
3	防災に対する体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

1. PC 機器等ハード面は十分な体制は整えてはいるが、新しい技術・トレンドや要求に対応するアプリケーションの充実も図っていききたい、また、関連する様々なデザインフロントや写真素材集なども、ある程度揃えていきたい。

## 7. 学生受入れ募集

No	設問	評価点
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

1. コロナの影響や世界情勢の影響で留学生の見込みが減少している、また関東の高校訪問も少ない状況である、当校だけの問題ではないが非常に厳しい状況ではある、今後は動画やオンラインの説明会などをこれまで以上に活用した募集活動を行う必要がある。
2. 2019 年度にカリキュラムを抜本から見直し再設計を行いシラバスの再構築を行っているが、専門用語が多く理解しにくい科目がある、今後は WEB や学校案内に公開することを考えて、一般の方でも授業内容を理解できるよう修正・見直しを行い統一感のあるシラバスにする必要がある。

## 8 . 財務

No	設問	評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

- 1・2. 学生数の減少により収益減が財務基盤の不安要素である。引き続き人件費の改善や経費節減に努めるとともに、戦略的な年間募集計画を作成する。また、中長期計画においても抜本的な見直しが必要である。

## 9. 法令等の遵守

No	設問	評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④・3・2・1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④・3・2・1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4・③・2・1
4	自己評価結果を公開しているか	④・3・2・1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

3. 自己評価の結果を受けて、具体的な目標を設定し、行動計画を策定する必要がある。  
自己評価から得た情報を活用し、改善が必要な分野に焦点を当て問題点の改善に努めたい。

## 10 . 社会貢献・地域貢献

No	設問	評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1

### 【2022 年度の現状と今後の改善策】

1. 学校内で社会貢献に関する意識啓発キャンペーンを実施し、教職員や学生に対して社会貢献の重要性を伝える必要がある。具体的な事例や成功ストーリーを共有することで、モチベーションを高める必要がある。
2. 学生や教員のリソースが限られているという現状を踏まえつつも、例えば町内会のお祭りのポスターや防災訓練のチラシ作成など、印刷物を活用した貢献の可能性はあるといえる。今後も当校が提供できる貢献の可能性を探求し、積極的に貢献活動をしていきたい。
3. 以前は、学園祭などのイベントを通じて、一般の方々を対象とした公開講座や職業体験プログラムを提供していた、現在は困難な状況が続いている。また、以前は地元の組合や区役所からの要望で体験セミナーを開催していた。東京都の地場産業の一つは印刷産業である利点を生かし地域社会への貢献を継続的に推進していきたい。